

(平成25年12月17日)

## 第2回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H25. 10. 22 (火) 19:00~21:00  
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F (シルバーセンター) 会議室B  
出席者 : 13名

< 内容 >

### 1. 出席者自己紹介

前回(第1回)は講演会形式だったので、実質今回は初めての顔合わせ会となった。

### 2. 配布資料

(資料1)「幕末の先覚者 赤松小三郎」(千野紫々男)～「伝記」1935年5月号

(資料2)「幕末の先覚者 赤松小三郎」(千野紫々男)～「伝記」1935年6月号

(資料3)「続再夢紀事・6」(中江雪江)～東大出版会・1988年復刻

(資料4) ①赤松小三郎政体改革意見書七策(建白七策)

②坂本龍馬の「船中八策」

③坂本龍馬の「新政府綱領八策」

④山本覚馬の「管見」

⑤五箇条の御誓文～「赤松小三郎実録発刊記念講座」 赤松小三郎顕彰会  
会長 伊東邦夫(51期)様 より

(資料5)「刊行されている史料一覧」 宮原安春(58期)様 作成

(資料6)「管見～覚馬のめざしたもの」(竹内力雄)～歴史読本 2013年7月号

(資料7)「赤松小三郎顕彰会および『実録』の紹介記事」～2013年9月20日 朝  
日新聞 第2長野版

(資料8)「赤松小三郎 疑問点・研究課題」～55期宮島光男様のレジメ参照・事務  
局作成

### 3. 宮原安春(58期)さんによる、上記(資料5)「刊行されている史料一覧」の 解説

<以下、当日の解説を中心に>

#### 1) オリジナル史料

中江雪江(越前藩松平春嶽の祐筆)「続再夢紀事・6」(上記 資料3)は、中  
江雪江「昨夢紀事」の続編

・春嶽宛ての口上書の全文が転写されている貴重な史料。「昨夜紀事」では松平春  
嶽と松平忠固の確執がわかる。

一説には、忠固は賄賂は一切受け取らない潔白な人物であったのが原因とも言われ  
ている。

越前藩士で赤松小三郎の友人で青山小三郎がいる、彼の史料を当たれば何かわかるかもしれない。

## 2) 伝記

- A 「赤松小三郎先生」(柴崎新一)～信濃毎日新聞社、1939年刊・単行本になっている伝記(第1回研究会で宮地正人先生の講演でも紹介された本)。
- ・柴崎新一は藤澤直枝(息子さんは二中の音楽の先生)とともに上田史談会のメンバー。
- B 「赤松小三郎物語」(片桐京介)～私家本
- ・片桐京介:本名は平野さん、上田市立図書館長、真田太平記念館館長、を歴任。
  - ・まだ在庫がある。

## 3) 雑誌などに載ったのちに単行本に収録された評伝

- A 「幕府の先覚者 赤松小三郎」(千野紫々男)～上記 資料1・2
- ・第1回研究会で宮地正人先生の講演でも紹介されたもの。
  - ・赤松暗殺の容疑者は桐野と推測(→後年赤松の没後100年・1967年に桐野の「在京日記」が発見された)
  - ・千野氏がどういう人だったのか不明であり、調べる必要あり。
- B 「赤松小三郎 ー 代議政治を唱えた悲運の兵学者」(原田伴彦)～原田伴彦著作集6 思文閣出版、1982年刊・赤松の業績を踏まえて、議会政治の先導者として評価。
- ・原田氏は松本深志卒の歴史学者で、大阪市立大学名誉教授(1917～1983)
- C 「夜明け前の生贄～赤松小三郎」(井出孫六)～「明治民衆史を歩く」新人物往来社、1980年刊・単に赤松の悲劇を描いた面あり。
- D 「赤松小三郎の最期」(井出孫六)～「信州奇人考」平凡社、1995年刊・桐野利秋の日記を引用して暗殺についてリアルに書いている。

## 4) その他の資料

- A 「赤松小三郎実録」～赤松小三郎顕彰会、2013年刊
- ・顕彰会10年を記念した単行本。赤松研究会必読の本。(在庫あり)
  - ・顕彰会会長は51期伊東邦夫氏
- B 「松平忠固・赤松小三郎」～上田市立博物館、1994年刊
- ・執筆は小林利通氏、尾崎行也氏
- (上田市立博物館を訪れた際には、これと併せて「赤松小三郎 松平忠厚」(上田市立博物館、2000年刊)もお求めをお勧めします。両方とも関係資料が豊富に紹介されています。)

## 5) 探したい史料

上田藩主松平家の日記 「日乗」(元治2年～明治元年)。調査する必要あり。

- ・老中を輩出した松平家の史料は単なる地方史の史料ではなく、国政上も重要な史料。上田市が出資してでも活字出版すべき。

#### 6) 小説

「龍馬の影～悲劇の志士・赤松小三郎」 (江宮隆之) ～河出書房新社、2010年刊その他、今後の研究を進める上で、「長野県史」、「上田市史」、「日本近代思想体系9 『憲法構想』」(江村栄一)～岩波書店、1989年刊、等の紹介があった。

#### 4. 今後の研究会の進め方

- ・今回配布した資料および宮原安春さんの史料一覧で、当面必要と思われる基礎的な資料は揃った。今後も随時、または都度の研究会のテーマに合わせて資料を追加案内していく。
- ・今後の研究会の進め方について、事務局からは以下を提案
  - (1) 関連文献や資料を各自で読み進め、研究会で意見交換する
  - (2) 研究テーマを決め、そのテーマについて研究会で意見交換する
  - (3) 専門家の話を伺う(例：先日の講演会)
- ・また出席者からは、第1回研究会の宮地正人先生のご指摘はもっともだが、我々はあくまで素人にて、まずは素人なりに赤松小三郎について新たな知識の吸収をしていこう、という意見が出た。
- ・出席者の中に、芦田家のその後をよく知っている方がおられ、今後機会を作って詳しくお話を伺えればと思います。

以上

赤松小三郎研究会事務局 荻原 貴 (79期)

次回：12月17日(火)

内容(予定)：

- 「小三郎・覚馬・龍馬の行動履歴」・・・石川浩さん
- 「西洋事情について」・・・滝澤進さん